



リーダーとして
チームをまとめ上げ、
より良い裁判所を
つくりたい。

Tomoko
Nitta

新田 朋子

福岡家庭裁判所
主任家庭裁判所調査官

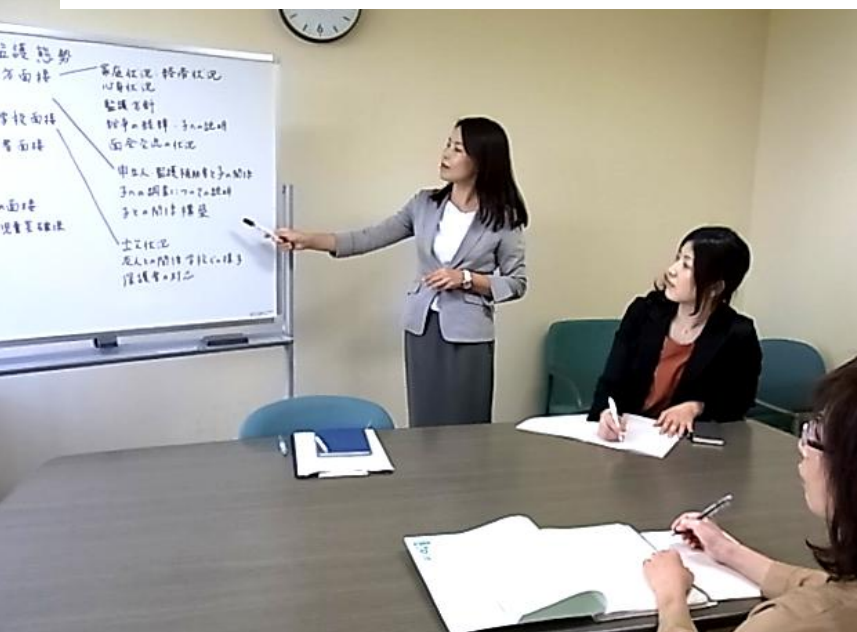
平成 12 年採用

家庭裁判所調査官

チームの力を最大限に

「この子が面接で述べた言葉、その時に見せた表情をどのように理解すればよいのだろうか。」「子どもの気持ちをどのように伝えれば両親に理解してもらえるだろうか。」

家事事件において、家庭裁判所調査官は、未成年の子どもと直接面接し、子どもの気持ちや思いを把握したり、それを両親に伝えて子どもの思いにも目を向けながら問題を解決するよう働きかけたり、子どもの幸せのためにどのような解決策がよいのかを両親と一緒に考えたりします。表現力が十分に発達していない幼少の子どもは単純に理解できるわけではありません。紛争が激しくなり互いに非難しあう両親に、子どもの気持ちに十分目を向けもらうことも容易ではありません。



主任家庭裁判所調査官は、チームリーダーとしての役割を担っています。家裁調査官は、日々の仕事の中で困難にぶつかることもありますが、個人のみではなく、チーム全体でアイデアを出し合い、議論しながら最善の解決策を見つけていきます。その中で、主任家庭裁判所調査官としては、議論において、先輩も後輩も関係なく、チーム全員がプロ意識を持って意見を出し合える雰囲気を作ること、出された意見を問題の解決に結びつくような形でまとめ上げていくことを心がけています。

これは、家事事件だけでなく、少年事件においても同じです。私自身、仕事の壁にぶつかるたびに、同僚や上司と一緒に解決策を考えてくれたことで壁を乗り越えることができた経験があり、主任家庭裁判所調査官としてその経験を生かしたいという思いが根底にあります。

チームでの議論を踏まえて、チームの家庭裁判所調査官が自信を持って粘り強く、両親に対して働きかけた結果、両親がこれ以上子どもにづらい思いをさせないような解決を探ろうと前向きに考えるようになったとき、チームの力の大きさ、チームリーダーとしてのやりがいを実感します。



チームが最大限に力を発揮するためには、チームの家庭裁判所調査官それぞれの能力を常に高めることと結束力が大切です。そのために、日ごろからチーム全体によく目配りし、必要なアドバイスをしたり、困っているようであれば声をかけて相談しやすい雰囲気を作るように心がけています。また、チームの家庭裁判所調査官それぞれの得意分野を存分に生かせる機会を設けるようにして、それをチーム全体で認め合えるような雰囲気づくりに努めています。

広い視野を持って

私は、約6年前、家庭裁判所調査官の現場を離れて、裁判所職員総合研修所に配属となりました。事務方として研修運営に携わる中で、裁判所の研修制度が、綿密に練られた手厚いカリキュラム構成と研修運営に関わるスタッフ全員の熱意に支えられていることを実感しました。家庭裁判所調査官補が、日を追うごとに実務に必要な専門知識を身に付けて発言の内容を深めたり、任官後の家庭裁判所調査官が、研修から様々な気付きを得て意欲を高めていく姿を目の当たりにし、研修の大切さ、人を育てることの重要性について考えさせられた経験は、今、主任家庭裁判所調査官として人材育成に関わる上でとても役に立っています。





また、主任家庭裁判所調査官は、裁判所内部の他の部署、児童相談所や学校などの裁判所に関わりのある機関との連携において窓口の役割を果たします。円滑な連携に当たっては、他の部署や関係機関が今どのような状況に置かれているのか、裁判所や家庭裁判所調査官がどのような役割を期待されているのかといった広い視野を持つように心がけています。

広い視野を持つことは、日ごろ直面する課題に取り組むことが裁判所全体の課題の改善にどのように結びついていくのかということを考えることにつながり、これをチーム内で共有することにより、チーム全体のモチベーション向上にもつなげることができるように感じています。

最後に

裁判所には、意欲と志があれば成長できるシステムが整っています。是非、皆さんと一緒に、家庭裁判所調査官としての能力と可能性を切り開きながら、チームで支え合い、より良い裁判所を作り上げることに貢献できればと心から願っています。

